

東労基発 1206 第 4 号
令和 4 年 12 月 6 日

関係団体の長 殿

東京労働局労働基準部長



冬季における転倒災害防止について

労働基準行政の運営につきましては、平素より格別の御理解、御協力をいただき御礼申し上げます。

令和 4 年 10 月末現在における東京労働局管内の労働災害は、休業 4 日以上之死傷災害件数が前年同期と比べて 73.6% 増加し 16,233 件発生している状況です。このうち、転倒災害は 2,031 件と全体の 12.5% を占め、前年同期と比べても 11.5% 増加（前年 1,821 件）している状況にあります。

そのような中、冬季においては、積雪・凍結を原因とする転倒災害、交通労働災害、除雪作業中の墜落・転落災害等の労働災害が多発することが懸念されます。東京都内においても、令和 4 年 1 月 6 日の積雪（都内：10 cm）により凍結した通路上で転倒による死亡災害が 2 件発生しており、積雪・凍結を原因とする転倒災害を防止するため、気象情報の活用によるリスク低減の対策を講じることが重要です。

こうした状況を踏まえ、今般、冬季における転倒災害防止を目的とした別添のリーフレットを作成しましたので、御活用いただき、傘下会員に対し、貴団体の広報媒体等を通じた周知に御協力賜りますようお願いいたします。

また、転倒・腰痛災害等の行動災害の予防に向けた取組として、厚生労働省が本年立ち上げた SAFE コンソーシアムにおいて、現在 SAFE アワードが実施されていますので、併せて情報提供いたします。

[リーフレット掲載先（東京労働局ホームページ）]

<https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/content/contents/001320036.pdf>

[SAFE アワード（SAFE コンソーシアムポータルサイト）]

<https://safeconsortium.mhlw.go.jp/award/>

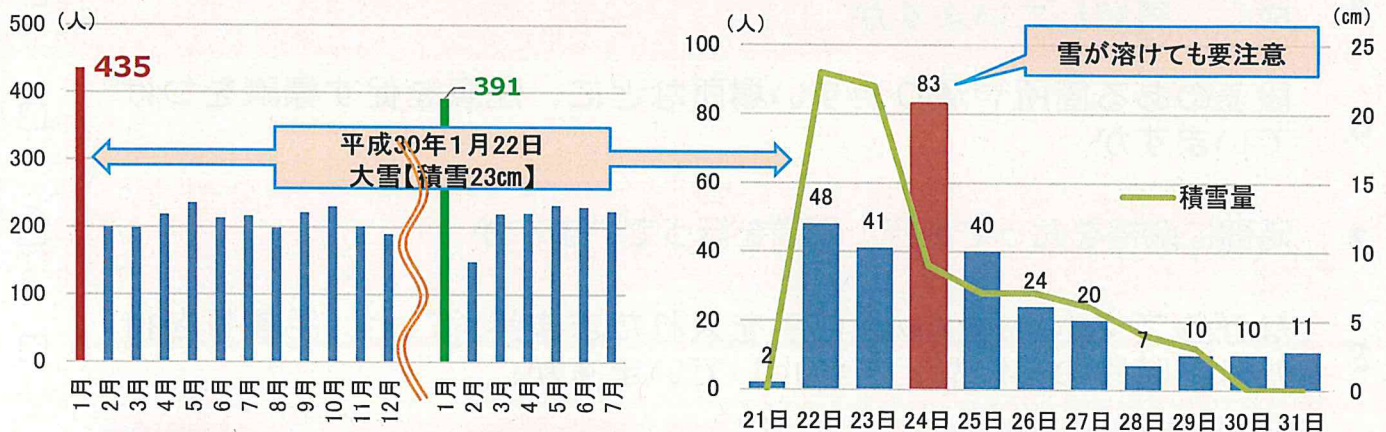


冬季の積雪や路面凍結による転倒災害を防ぎましょう！

👉 令和4年1月6日の積雪(都内:10cm)により、凍結した通路や路面上で転倒による死亡災害が2件発生しました。

月	業種	職種		事故の型	発生状況の概要
		年齢	経験		
1	教育 研究業	教育・研究者		転倒	打ち合わせを行うために敷地内を移動していたところ、前日の雪の影響により凍結した通路で足を滑らせて転倒した。(後頭部を地面に打ち付け、硬膜下血腫となった。)
		50歳代		通路	
		20年以上 30年未満			
2	その他 の事業	警備員		転倒	敷地内を歩いていたら、前日の降雪により凍結していた路面上で転倒し左後頭部を打った。
		60歳代		通路	
		10年以上 20年未満			

👉 平成30年1月22日(都内:23cm)及び令和4年1月6日の降雪では、積雪や路面凍結による転倒災害が大幅に増えました。また、雪が解けても数日間、路面が凍結した状態が続き、屋外の移動や作業は注意が必要です。



月別転倒災害発生状況(東京、休業4日以上)

1月下旬日別転倒災害発生状況
(平成30年、東京、休業4日以上)

ポイント1

気象情報の活用によるリスク低減の実施

- 大雪に関する気象情報を迅速に把握し、気象状況に応じた作業を行う

ポイント2

通路、作業場所の凍結等による危険防止の徹底

- 屋外通路や駐車場の除雪、融雪剤の散布による安全通路の確保
- 事務所への入室時における靴裏の雪、水分の除去の徹底
- 凍結した路面等における荷物の運搬方法、作業方法の見直し

歩幅を小さく、
ヨチヨチ歩く
ペンギン歩きが
理想的！



～トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心～

東京労働局・労働基準監督署

まずは自主点検を行いましょ

事前の準備は、安全委員会の委員等による職場巡視を実施し、下のチェックリスト等を活用して設備等の点検を行い、必要な改善や労働者の意識啓発を行いましょ。



チェック項目（冬季用）

1	身の回りの整理・整頓を行ってありますか 通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように、十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	作業靴は、作業現場に適したものを選び、定期的に点検していますか（耐滑性のある靴は、雪や氷、粉による滑りには適用していません）	<input type="checkbox"/>
5	ヒヤリハット情報を活用して転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
6	段差のある箇所や滑りやすい場所などに、注意を促す標識をつけていますか	<input type="checkbox"/>
7	時間に余裕をもって歩行、作業を行っていませんか	<input type="checkbox"/>
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	天気予報に気を配っていますか	<input type="checkbox"/>
10	駐車場の除雪・融雪は万全に、出入口などにも注意していますか	<input type="checkbox"/>
11	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>
12	職場の点検、適切な履物、歩行方法などの教育を行っていませんか	<input type="checkbox"/>

冬季前に転倒災害防止対策を行いましょ！

※東京労働局では、

Safe Work TOKYO

を展開しています



安全衛生に関する資料を用意しています

https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/news_topics/topics/2017/9_00002.html

冬季も

STOP! 転倒災害
プロジェクト

みんなの安全を、みんなで守り合う。



— 加盟は無料です —



コンソーシアムについて

全てのステークホルダーが一丸となり、安全で健康に働くことのできる職場環境の実現を目指す「従業員の幸せのためのSAFEコンソーシアム」を設立しました。

シンポジウム開催告知

令和4年10月(予定) ▶ 令和5年2月(予定)

全国7会場(各1回) 東京 / 大阪 / 仙台 / 新潟 / 静岡 / 広島 / 香川



従業員の幸せのための安全アクション「SAFE」のロゴマークで、安全のシンボルマークである緑十字をモチーフとしたものです。

SAFEコンソーシアムポータルサイト →



Safer Action For Employees

「従業員の幸せのための安全アクション(SAFE)コンソーシアム」として、全てのステークホルダーが一丸となり、働く人と、全ての人の幸せのために、安全で健康に働くことのできる職場環境の実現のため取り組んでいきます。

労働災害防止に向けた機運の醸成や、企業・労働者のみならず、顧客やサービス利用者等のステークホルダーの行動変容のためにご協力いただける全ての企業・団体等の皆様に、コンソーシアムへの参画を呼びかけていきます。

コンソーシアム設立の背景・目的

近年、小売業および介護施設を中心に転倒・腰痛等の労働災害の増加が続いており、これに歯止めをかけることが喫緊の課題となっています。しかしながら、日常生活でも起こりうる転倒・腰痛等については、その防止に取り組むメリットがわかりづらく、企業や労働者の行動変容につなげていない状況があります。SAFEコンソーシアムは、このような現状を打破するため、幅広い関係者(企業、団体等)の参画を募り、「Safer Action For Employees (SAFE)」を旗印に、新たな切り口による取組を進めていこうとするものです。

加盟メリット

- ロゴマークの使用やアワードによる労働安全衛生への取組のPR
- 加盟メンバー間での取組事例の共有による企業内等での労働安全衛生水準の向上、労働災害損失の減少
- 加盟メンバー間の労災防止・健康増進事業連携マッチング

取組

- ① 労働災害問題の協議・周知(シンポジウム)
- ② 好取組事例の共有、コンソーシアム事務局主催イベント等によるマッチングによる新たな取組の創出
- ③ 優良事例の表彰、コンソーシアム内外への発信(SAFEアワード)
- ④ 参画メンバーの地位向上(ロゴマーク、バナー等)



従業員の幸せのための取組を行っている企業・団体に事例を応募いただき、優れた取組を部門別に表彰する予定です。

〈応募期間〉令和4年10月(予定) ▶ 12月(予定)

〈アワード開催〉令和5年2月(予定)

SAFE コンソーシアム
ポータルサイト

<https://safeconsortium.mhlw.go.jp/>



加盟はこちらから

<https://safeconsortium.mhlw.go.jp/sc/consortium>



SAFE コンソーシアム
Twitter @safe_mhlw

https://twitter.com/safe_mhlw

